

第6回揮発性有機化合物(VOC)排出インベントリ検討会 議事要旨

1. 日時 平成 19 年 11 月 9 日(金) 15:00～17:00

2. 場所 主婦会館プラザエフ スイセン

3. 議題

(1)前回検討会における指摘次項と対応方針

(2)推計制度の改善に関する調査の結果と今後の情報収集の方針について

(3)法令取扱分類別排出量に関する調査の進捗状況と今後の方針について

(4)排出量の増減の検証方法について

4. 出席者

委員:浦野委員長、指宿委員、桐明委員、久米委員、山本氏(柴田委員代理)、高戸委員、

洞雞委員、野中委員、保坂委員、山口委員、油井委員

オブザーバー:海野氏(日本クリーニング環境保全センター)

環境省:岩田大気環境課長、米田大気環境課長補佐

事務局:社団法人 環境情報科学センター

5. 議事内容

○ 事務局より、精度上の問題点の優先順位付けと今後の情報収集の方針(案)について説明があり、議論が行われた。主な検討結果は以下のとおり。

- ・ VOC 排出量の進捗状況が把握できない問題点及び VOC 排出量が数万トン以上変動する可能性のある精度上の問題点について優先的に取り組むべきであるが、VOC 排出量が数千トン程度変動する可能性のある精度上の問題点についても、大気汚染防止法においては、全体として VOC 排出量の削減努力をしていくものなので、精度が低いことは周知徹底させるべきである。

○ 事務局より、法令取扱分類別排出量に関する調査の進捗状況と今後の方針(案)について説明があり、議論が行われた。主な検討結果は以下のとおり。

- ・ 実排出量や潜在排出量を算出する流れや、その際のアンケートへの回答結果の使用方法を調査対象団体に対して明確に示すべきである。
- ・ 業界毎に VOC 排出量の削減努力の方法等状況が異なるため、個別に調整を実施すべきである。

○ 事務局より、排出量の増減の検証方法(案)について説明があり、議論が行われた。主な検討結果は以下のとおり。

- ・ VOC 排出インベントリと化管法の届出データと比較をする場合には、両者に共通する物質を抽出して比較を行うべきである。

- ・ 化管法では事業者のすそ切り等の届出要件があり、届出は比較的大規模な事業者に偏っているため、VOC 排出インベントリとの比較には、条件の違いに十分留意すべきである。

○ 事務局より、その他の指摘事項への対応方針について説明があり、議論が行われた。主な検討結果は以下のとおり。

- ・ 大気中の濃度測定結果と比較を行う場合、移動体から排出される可能性のある物質をすべて除外するのではなく、固定発生源からも排出される物質を用途等から抽出し、定量的に比較を行うべきである。
- ・ 化管法に基づく排出量と VOC 排出インベントリにおける業種別排出量を比較した際に、化管法に基づく排出量が多い又は排出量が同程度の業種については、その原因を確認すべきである。

<配付資料>

議事次第

揮発性有機化合物(VOC)排出インベントリ検討会 座席表

資料1:第5回 揮発性有機化合物(VOC)排出インベントリ検討会 議事要旨等(案)

資料2:精度上の問題点の優先順位付けと今後の情報収集の方針(案)

資料3:法令取扱分類別排出量に関する調査の進捗状況と今後の方針(案)

資料4:排出量の増減の検証方法(案)

参考資料:その他の指摘事項への対応方針

以上